

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の家		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	平成29年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3372201024-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日を活気ある生活にしてもらうために一人一人の声をしっかり聞いて個々の生活を大切に支援援助する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者も年々、高齢化や重度化が進み、この1年で4名の入れ替わりもあり、訪問して一番に感じた事は、リビングの静けさだった。そう感じたのは午前・午後を問わずまるで合唱団のようにリビングに響いていた歌声が聞こえてこなかった事も起因しているが、一番賑やかなAさんが受診で留守であるのと、活動的だった人も症状が進み居室で休んでいる時間が多くなったのも静けさの原因であるらしい。現在、男性利用者3名、女性利用者6名であるが、新規入所の男性利用者は自分の事は自分でしたいという気持ちが強く、例え失敗があってもその人の持っている能力や機能が十分に発揮できるように職員は日々支援しているし、入所前には困難事例だった人も入所後には穏やかに問題なく過ごしているという点でも、このホームの職員のコミュニケーション能力やスキルの高さを物語っている。管理者が「ここは働きやすい。もったいないくらい良くしてもらえ」と言っていたが、社長も理解があり、職員も長年勤務の人が多く何でも言い合える間柄と聞いている。地域にもしっかり貢献しているホームと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲載し、また会議等で話す機会を設け、より理念に沿うように仕事をしている。	法人の理念の他に、ホームの目標として「一人ひとりに出来る事をしてもらおう」と利用者の残っている機能を全力で支援している。職員の役割分担の範囲を超えて皆で協力し合うことが出来、業務時間の見直しも図ることが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントには地域の人々のボランティアの協力してもらっている。また地区の人とも親しく話ができている。	今年の文化祭には酉年の手作り暖簾や貼り絵を出展し、利用者と一緒に見学に行った。保育園児との交流では、保護者も一緒に大勢訪問してくれ、賑やかな交流の輪が一段と拡がりを見せ、地域の中でしっかり貢献ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区文化祭(万富公民館)に参加し出品展示見学に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の利用者の活動状況等を報告している。行事などへの参加、ボランティア依頼など地域に密着した活動、交流を行っている。	法人の「万富の郷」と合同で定期的に開催している会議には、地域包括・町内会長・民生委員等の参加があり、活動報告や情報交換をして有意義な意見交換をしている。家族には会議への案内を出しているが参加が少ないのが現状。議事録は職員間で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター担当者に現場の状況を理解していただきアドバイス等協力を得ている。	市主催の研修会に参加したり、近々には介護保険制度改正の説明や市の集団指導に参加する予定である。運営推進会議で担当者によく話し合っており、ホームの事で何かあればその都度、相談し助言・指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が対応方法を徹底し、自由な生活を支援している。	日中は玄関の施錠はしていない。散歩が習慣の人の場合、外に出たい時には自由に出てもらい職員が見守りをしているが、庭先で外気浴のみの場合もある。身体拘束禁止の研修をして職員はよく認識をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にできるあざ、傷を発見したとき職員で確認しあい原因等話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所の成年後見人の実例を聞き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時施設の方針などを話し対応可能な範囲について丁寧に時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に月一度「万富の家便り」で近況をお知らせしている。電話、面会時にコミュニケーションを図り意見を頂いている。	毎月の便りでは行事の写真や報告の他に、担当者からの「一言メモ」で、生活の様子や心身の状態を伝えている。直接、利用料をホームへ持参してくれる家族も多いので、面会時には状況報告をしたり意見や要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士コミュニケーションを図り案を出し合っている。	毎月の職員会議でよく話し合っているし、社長も日頃から野菜等を持ってよくホームに寄ってくれ、気軽に相談に乗ってもらえる。職員の立場もよく理解してもらえるので、勤務年数の長い職員が多く、チームワークも良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別の相談を受け向上心を持てるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修で自主的に資質の向上を持ち自己啓発を重点に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の施設があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入所の方にはコミュニケーションを密にして他入居者と職員との信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には耳を傾け入所者の状態を細かく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いと利用者の状況を確認し合い、改善に向けた必要なサービス提供に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを時間をかけて聞き理解し苦しみ喜びをスタッフと共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し、入所者の思い職員の思いを家族に伝え協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、兄弟など施設に遊びに来てもらい交流ができています。正月には息子夫婦宅へ外泊もする。	利用者同士が近所の人、以前からの顔見知りの人もいて、面会に来てくれる家族とも話に共通点があり会話が弾む。姉と妹・実母と姑が同時期に入所していた事もあり、職員も馴染みの関係をしっかり支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で過ごす場面づくり、みんなで楽しく過ごす時間を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て連携に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を見出している。心身の状況の違いなど個人を尊重した介護方法で対応している。	難聴、言語障害のある人とは筆談をしてコミュニケーションを取っており、集団の苦手な人には、無理強いはせず自分の部屋で自由に過ごしてもらっている。また、例え失敗があっても、自分で排泄の後始末や着替えをしたい人には意向に添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーより情報を収集し入所してからの対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの性格にあわせ無理のない生活を送っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体、精神状態を話し合い、家族と職員と相談して最善な計画で実践している。	本人・家族の意向やケア記録を基に、職員間でカンファレンスやモニタリングをして、ケアプランを作成している。日々のケア記録が、S訴え・O観察等と記号を使い職員が共有しやすい内容になっており、プランに活かすように取り組んではいるが、「心のケア」も大切な支援と思える。	ケアプランの意向欄は本人・家族の言葉が具体的に記入され、目標の設定・支援内容につながっているが、身体面のみでなく、「心のケア」である心理面での支援内容もプランに盛り込んで欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りのとき心身の状況、会話などの情報を伝え介護計画、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化を看護師に相談して、かかりつけ医に連絡してアドバイスをもらい受診、往診、薬受けの代行をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回の運営推進会議で夏祭り、クリスマス会、餅つきなど地区の方々に行事の協力、協働で楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望されるかかりつけ医になっている。家族の受診同行、また職員も同行することもある。かかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医の往診もあり、精神科等の他科受診は家族の付添いが多い。毎週、家族が同行してリハビリに通院している例もある。職員に看護師が配置されており、緊急時には医療機関との連携もスムーズに出来るので安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れて十分な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換はできている。対応可能な段階で早期に退院できるよう医師と相談する機会をもっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と家族又は職員で連携をとり納得できる介護、支援をしている。	重度化した場合、他施設や入院となるケースが殆どであり、今はターミナル期の人はいない。看取りの方針はあるので、本人・家族が希望すれば、特別な医療が必要でない限り、医療機関・家族等と連携を取りながら出来る限りの支援をしようと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは掲示し会議や休憩時間も職員同士で話し合いはできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回入所者とともに訓練している。運営推進会議で地区の協力をお願いしている。	地震対応・消火訓練・通報の仕方等の避難訓練を年2回行い、4月にはスプリンクラーの設置工事も完了した。運営推進会議でも災害について話し合い、ホーム単独で全員の避難(移動)が出来るかという質問もあがっていた。	すぐ近くに「万富の郷」もあり、合同で災害対策をしており、地域との協力体制もあるが、更に、今後に向けて災害時の移動手段や方法等、しっかり話し合ってください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を把握し言葉かけに心掛けている。	利用者への呼称は本人・家族に確認しながら、その人の望む呼び方に行っている。安全確認の為もあり、居室のドアの一部分が透明ガラスになっているが、今年から、この部分に小さな暖簾をかけてプライバシーへの配慮もしていた。	呼称については本人・家族(又は当事者)の意向確認をしていると思うが、時々耳にする氏名以外の呼び方が、“この呼び方でもいいのか”今一度呼称について職員間で話し合ってみて欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望にあわせ要望を聞き職員と相談して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にあわせ要望を聞き職員と相談して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など本人と相談しながら季節感を考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使い献立をたて、食べたいものを聞きメニューに入れている。野菜のしょうやくなど出来ることを手伝ってもらっている。	職員が献立を考え、毎食手作りの食事を出しており、刻み・お粥・ペースト等個々の食事形態に合わせている。職員も一緒に話をしながらの楽しい食事風景であり、全員完食だった。出来る人には家事手伝いをしてもらい、3時には利用者と一緒に作ったおやつをいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など経過記録に記入して把握している。体調に合わせて刻み、粥、ペーストなどで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の状態に応じた歯磨きの声掛け誘導している。入れ歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票を付けて個人のトイレサイクルを把握して、声掛け誘導して失敗のないように心がけている。	全員トイレに座っての排泄を基本としており、布パンツで自立の人もあるが、以前より重度化が進み、殆どが紙パンツ・オムツであり職員の見守り・介助が必要である。職員の細やかな声かけと誘導でトイレでの排泄がスムーズに出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりともらう声かけ、排便体操など取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一回は入浴していただいている。希望も聞き体調に合わせた入浴方法にしている。	職員の見守りは必要だが、自分が持参した石鹸で洗顔・洗身やシャンプーをする自立に近い人もいる。重度化している人はシャワー浴・足浴の他、清拭で対応している。長風呂が好きな人もいて、なかなか湯船から出ない時もあるが、職員が上手に声かけしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じ休憩していただき、夜間ぐっすり眠れるように日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用量の変更の際は主治医、看護師、職員と連携支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった得意なことを発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外泊、外出したり家族の協力ができている。	近くに熊山の英国庭園があり、例年出かけている。紅葉狩り、ドライブや外食の外出支援もしており、ホームの近くにある桜並木は居室の窓からもよく見え、眺めて楽しんでいる利用者もいる。天気の良い日の散歩は日課になっていて、庭先での日光浴や外気浴をして気分転換をする事も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時は家族よりお金を預かり、孫、ひ孫等に本人からお年玉など渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者から友人、家族に電話をしたり、また家族や友人からの電話もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や貼り絵などを入所者と一緒に作成している。	広いリビングでは、塗り絵、衣服の繕いのお手伝い、ビデオ鑑賞等、その人の関心のある事を思い思いにして過ごしている。一人で静かに過ごしたい人は自室でテレビをみて寛いでいる。そんな自然で自由な生活がここでは営まれている。時には皆で合唱して賑やかな時もあり、居心地の良い空間になっている。	利用者の入れ替わりと重度化が進み、以前の様な一日中歌声が響くようなリビングではなくなっているが、万富の家らしい利用者と職員との密な関わりが出来るので、これまでと違った形での明るく楽しい共有空間作りに期待している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルを置き、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく写真や置物を飾り心地よい空間、雰囲気作りをしている。	重度化が進み、日中も自室で過ごす人が増えており、ベッド、畳の上に布団、マットレスに布団等、その人の生活習慣や状態によって一人ひとりに合ったように工夫し、安全にも配慮している。テレビや雑誌、馴染みの物等を持ち込んでくつろげる室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、スロープなど設置している。		